

第 25 回 長野県移動性・安全性向上検討委員会 議事要旨

1. 開催概要

□開催日時：令和 6 年 3 月 13 日（水）13：30～

□開催場所：国土交通省長野国道事務所会議室

□議事次第

1 開催あいさつ

2 委員紹介

3 議事

1. 長野県における交通渋滞対策について

(1) これまでの検討状況及び今回の議題

(2) 主要渋滞箇所の解除について

(3) ピンポイント渋滞対策について

(4) TDM 施策について

(5) 主要渋滞箇所以外の要対策箇所について

2. 長野県における交通事故対策について

(1) これまでの取り組み経緯

(2) 長野県内の幹線道路交通事故対策

(3) 生活道路等への取り組み

(4) 通学路への取り組み

2. 質疑応答：長野県における交通渋滞対策について

■ : 説明・意見・質問・要望

➤ : 回答

(2) 主要渋滞箇所の解除について

【委員】

- 南原交差点では隣接する主要渋滞箇所の北原交差点からの先詰まり影響を受けている。その北原交差点について進捗中の事業内容を伺いたい。また、四賀南神戸交差点も上原北や上原頼岳寺交差点からの先詰まりが渋滞要因となっている中で対策予定はあるか。

【長野県都市・まちづくり課】

- 北原交差点については、街路事業で交差点改良を行っている。来年度の 4 月から工事着手予定である。

【事務局】

- 国道 20 号の対策は、諏訪バイパス事業（調査中）がある。

【委員】

- 解除を保留される 2 箇所 of 交差点について、対策内容や対策効果、解除の理由を明記してほしい。

【事務局】

- 2 箇所の交差点ともに、p.6 に記載のあるルール②「未対策だが 3 年連続で指標をクリア」した箇所として、現地確認・ヒアリングを踏まえて今回審議の対象としている。

【委員】

- 周辺環境の変化及び交通量の自然減少なのか確認できていない。また、データ上は解除であるが、地域の意見は渋滞している。データと実感が乖離している状況であるため、ETC2.0 データの見方を考えていかないといけない。

【委員】

- 資料は良くまとめられていてわかりやすい。今後は先詰まりという状況も整理して頂きたい。

【委員長】

- 南原交差点、四賀南神戸交差点については、解除を保留であるが、p.6 の解除フローに保留という分類はないがいかがか。

【事務局】

- 解除せず、引き続き対策を検討する。

【委員長】

- 南原交差点、四賀南神戸交差点については、解除せず引き続き対策を検討することとする。

【一同】

- 了承。

(4) TDM 施策について

【委員】

- 今後の取組を拡大する際に、勤務時間が決まっている工場や大型店舗などは、取り組みの拡大が難しい。今回、TDMに参加された企業の職種・業種等を教えてほしい。

【松本市】

- 取り組みに参加されているのは製造業など車通勤の多い企業に協力依頼をしている。
- また、勤務時間に制約がある場合は、事務職の方を対象に協力いただいている。

【委員】

- P.26 について、松本中心部においては速度が上昇している反面、周辺地域は速度低下しているように思われるが、要因があるのか。

【事務局】

- 渚 1 丁目などの松本の中心部へ流入するような交差点で速度が低下している。関連性は、交通の総量がわからないため、不明である。

【委員】

- 参加者が増えたら課題が増える状況を避けるため、事前に課題が出そうな部分の把握、周知の方法を考えて頂きたい。

【委員長】

- ETC2.0 データで分析しており、総量の把握は難しい。参加者がどの程度いると効果が発現するのかが分かると良い。また、渋滞している箇所の変換の推移や交通量が減少しても渋滞が解消しない状況など分析できたら良い。そのためにも、走行を避けてほしい明確な時間の提示が必要である。

【委員】

- TDM 施策以降も参加者が取組みを継続されているか把握しているか。

【松本市】

- TDM 取組み以降の状況は確認していない。今年度の取組みをフィードバックする際に、参加企業に確認する。

【委員】

- 取組みに参加されていない市民への広報の仕方等も検討して頂きたい。

【委員長】

- 本日議論いただいた内容について、引き続き事務局で検討を進めていただきたいが良
いか。

【一同】

- 了解した。

3. 質疑応答：長野県における交通事故対策について

- : 説明・意見・質問・要望
- : 回答

(1) これまでの取り組み経緯

【委員】

- 新ハラハラ箇所の進捗状況について、交通安全対策が推進されており、対策が完了したため、Doの箇所数が減少し、Checkの箇所数が増加したと理解した。今後の取組方針としては、Planの箇所数を減少させ、Checkに移行させる箇所数を増加させることで、事故低減を目指すという理解で良いか。

【事務局】

- 認識のとおり。交通安全対策を推進し、よりCheckに移行させることで、新ハラハラ箇所における事故を低減させていく。

(2) 長野県内の幹線道路交通事故対策

【委員】

- H22評価待ち区間のうち対策完了候補箇所は81箇所となるが、これらの箇所に対して地域の意見を確認したうえで、対策完了候補を対策完了とするか判断する理解で良いか。

【事務局】

- 認識のとおり。各道路管理者から地域の意見を確認することになる。

【委員】

- 次回以降の委員会にて地域の意見確認結果を審議頂くことになる。審議頂く際には、対策内容、対策効果、地域の意見がわかるように整理すること。

【事務局】

- 承知した。

【委員】

- 通学路における交通安全対策は全ての箇所で対策が実施されたと理解した。これらの箇所を選定する際に議論に参加されていた小学校やPTAに対して、実施した対策内容を確認する予定があるか。

【事務局】

- 対策実施前に合同現地調査を行い、地域の要望に対して対策を実施した。対策が完了した時点で教育委員会や関係者に対策内容を説明して確認頂いている。

【委員長】

- 本委員会にて審議頂く事項は、H22 評価待ち区間のうち 15 箇所 R2 事故危険区間への追加の優先度、及び H22 評価待ち区間のうち評価残である 36 箇所の評価結果及び R2 事故危険区間への追加の優先度となる。本委員会での審議事項については、事務局案で進めることで良いか。

【一同】

- 了承した。

(3) 生活道路等への取り組み

【委員長】

- 飯田市と駒ヶ根市の生活道路対策について、事務局案で進めていくことで良いか。

【委員】

- 駒ヶ根市飯坂地区で実施されたチェッカーペイントについて、本設置にあたっては色の再検討が必要と考えている。実証実験時は黄色と水色の市松模様だが、黄色は規制標識と同じ色となるため、本設置には再検討が必要である。

【委員長】

- チェッカーペイントを本設置する際の色は検討願いたい。基本的な方針については、事務局案で進めることで良いか。

【一同】

- 了承した。

会議状況写真

